

東北地方 1か月予報

(11月13日から12月12日までの天候見通し)

平成16年11月12日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

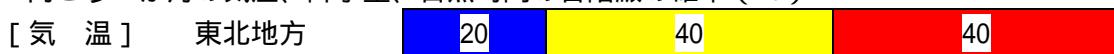
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

向こう1か月の平均気温は平年並か高い、降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並が多い、日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か高い、2週目は平年並か高い、3～4週目は平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



低い(少ない) 平年並 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



低い 平年並 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 11月13日(土)～12月12日(日)

1週目 : 11月13日(土)～11月19日(金)

2週目 : 11月20日(土)～11月26日(金)

3～4週目 : 11月27日(土)～12月10日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報 : 毎週金曜日 14時30分 次回は11月19日

3か月予報 : 11月25日(木) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	6.2	77.0	133.6	8.1	6.8	5.2
新庄	4.2	204.8	46.4	6.2	4.9	3.1
若松	4.7	79.1	76.7	7.0	5.4	3.6
深浦	5.2	151.2	48.8	7.3	6.0	4.2
青森	4.2	140.0	68.7	6.3	5.0	3.1
むつ	4.0	113.2	84.9	6.1	4.9	3.0
八戸	4.5	52.3	126.8	6.5	5.2	3.4
秋田	5.5	189.9	61.8	7.5	6.2	4.5
盛岡	3.5	85.6	104.1	5.5	4.2	2.5
宮古	5.7	67.8	143.9	7.7	6.4	4.7
酒田	6.9	234.9	57.7	8.9	7.6	5.9
山形	5.1	79.4	87.6	7.1	5.7	4.1
仙台	7.0	47.0	136.7	9.0	7.7	6.0
石巻	6.1	46.3	145.4	8.2	6.8	5.1
福島	6.8	49.5	125.7	8.9	7.5	5.8
白河	5.4	50.2	149.5	7.5	6.1	4.4
小名浜	8.7	70.2	167.4	10.7	9.4	7.6

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.7~+0.7	81~105	96~105
東北日本海側	-0.7~+0.7	88~107	94~106
東北太平洋側	-0.7~+0.7	65~104	95~106

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6~+0.7	-0.6~+0.6	-0.6~+0.6
東北日本海側	-0.6~+0.7	-0.6~+0.6	-0.6~+0.6
東北太平洋側	-0.6~+0.7	-0.6~+0.6	-0.5~+0.7

<参考資料(利用上の注意)>

- (1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。
- (2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。
- (3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成16年11月12日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(11月13日~12月12日):

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

平均気温は平年並か高いでしょう。

1週目(11月13日~11月19日):

期間の初めと終わりは高気圧に覆われ晴れの日もありますが、期間の中頃は気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多い見込みです。

平均気温は平年並か高いでしょう。

2週目(11月20日~11月26日):

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨の日が多く、東北太平洋側は平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

平均気温は平年並か高いでしょう。

3~4週目(11月27日~12月10日):

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

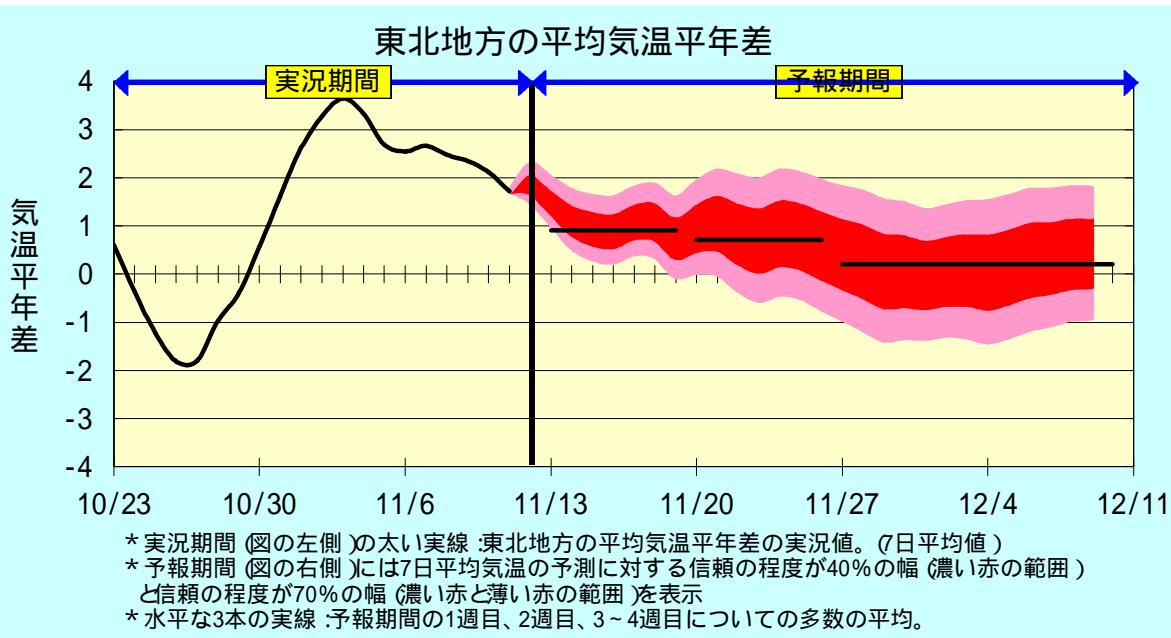
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	6.2日	1.8日	1.8日	2.6日
東北太平洋側	16.3日	3.9日	4.2日	8.2日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目を「高い」、3~4週目を「平年並」と予測している。予報は、週間予報などの資料から1週目、2週目を「平年並か高い」とする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

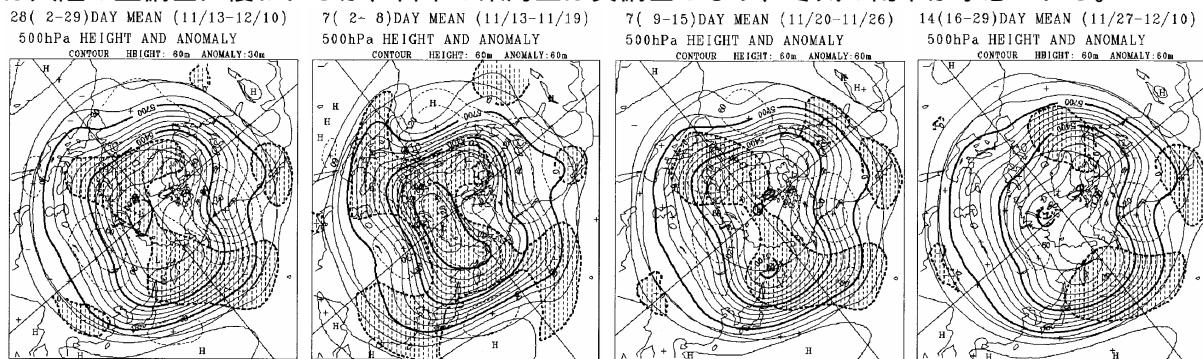


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、極付近から北太平洋に負偏差が広がるが、日本付近は大陸や南東海上に中心を持つ正偏差に覆われる。日本付近の偏西風の流れは順調で、低気圧は数日の周期で通過する。

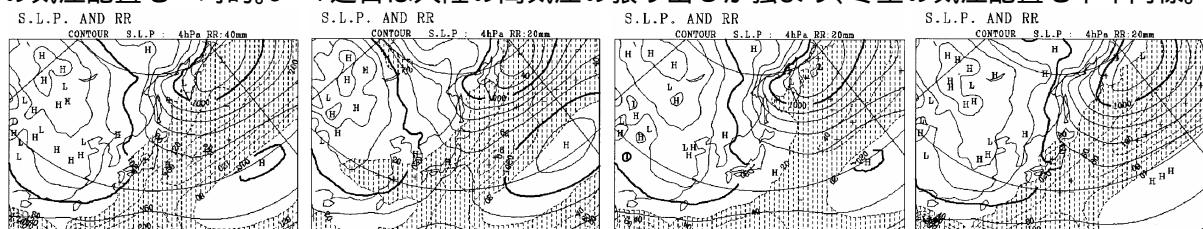
1週目は、沿海州から中国東岸が気圧の谷となり（西谷）、低気圧の影響を受けやすい。2週目は、日本付近は大陸の正偏差に覆われるが、北海道の東海上まで負偏差となる。3~4週目も日本付近は大陸の正偏差に覆われるが、日本の東海上は負偏差となり、寒気の南下が予想される。



地上気圧と降水量：

月平均では、大陸の高気圧の張り出しが平年より弱いが、アリューシャンの低気圧は平年より強い。日本付近の等圧線の間隔はまばらで、低気圧は数日の周期で通過する。日本の東海上にまとまる降水域があり、日本海側には寒気に伴う降水域がみられる。

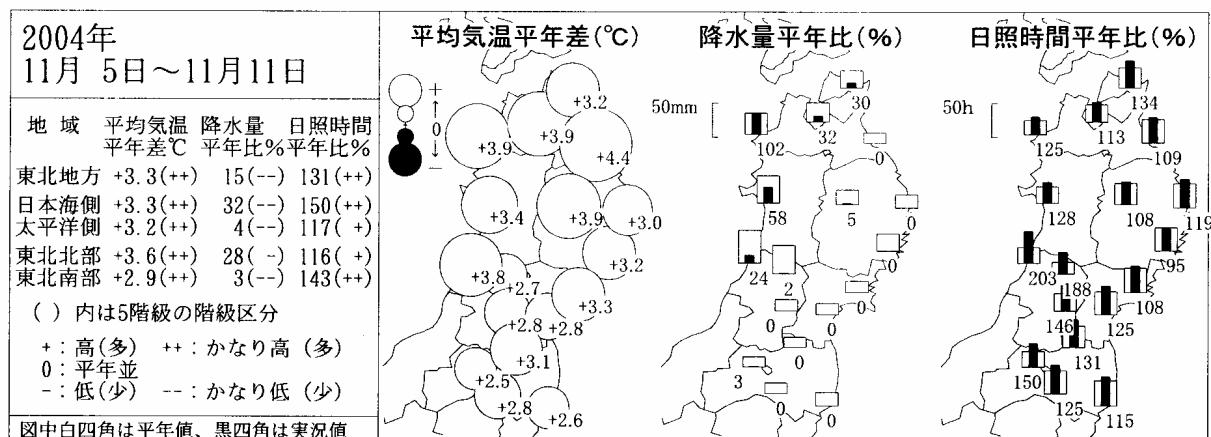
1週目は日本付近が低圧部となり、日本付近には南東海上を中心とする降水域がかかる。2週目以降は冬型の気圧配置となる。ただし、2週目は大陸の高気圧の張り出しが平年より弱く、冬型の気圧配置も一時的。3~4週目は大陸の高気圧の張り出しが強まり、冬型の気圧配置も平年同様。



4. 最近1週間（11月5日～11月11日）の天候の経過

この期間、寒冷前線や気圧の谷が数日の周期で通過し、6日や9日は東北日本海側で雷雨となる所があった。その他の日は移動性高気圧に覆われ、晴れの日が多かった。

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北北部で少なく、東北南部でかなり少ない。日照時間は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)